



### 11/3 自治の進展や環境美化に貢献

静岡県知事表彰式が県庁で行われ、市内からは、渡邊洋之さん(東本郷)が市議として議会運営の見直しや環境衛生施設整備などに尽力した功績により、また犬走島、福浦堤防周辺の清掃活動を実施し地域の環境美化に貢献した功績により下田防波堤愛好会が表彰されました。



### 11/13 パフォーマンスで観客魅了

第3回伊豆大特産市が道の駅「開国下田みなと」で行われました。賀茂地区の特産品・地場産品の販売やコンテスト、大道芸パフォーマンスに、会場は大勢の市民や観光客でにぎわいました。



### 火の元には十分ご注意を

秋の全国火災予防運動が9日から15日まで行われました。初日に、消防車16台による火災予防を呼びかけたパレードが行われたほか、期間中には各地域で消防団による、消火放水訓練が実施されました。



### 11/2~4、9~11 市民の芸術文化発表

市民文化会館を主会場に、下田市芸術祭が開催されました。舞台部門では27団体が邦楽・邦舞・洋楽・洋舞などを披露、また展示部門には書道、陶芸、手工芸など感性豊かな作品215点が展示され来場者の目を楽しませました。



### 11/9 マッサージチェアを寄贈

東電学園の卒業生で組織されている「東電みのり会」より、市へマッサージチェアが寄贈されました。このマッサージチェアは、下田市総合福祉会館2階に設置し高齢者の健康増進に活用させていただきます。

上旬	下田市芸術祭
1日	下田市表彰式 下田市技能功労者表彰式 青少年健全育成街頭キャンペーン
3日	ごみひろいしましよ

11月の予定

10日	遊・viva (大賀茂小学校)
11日	伊豆大特産市
14~15日	11月臨時市議会
24日	私の好きな下田の風景 絵画・写真コンテスト表彰式

## 下田市内の指定文化財その28

国指定天然記念物

### 伊古奈比(いこなひ)生命神社の アオギリ(アオギリ)自生地

所在地 下田市白浜  
指定日 昭和20年2月22日

アオギリは元々中国原産のアオギリ科に属する落葉高木です。「きり」と名前はついていてもたんすや下駄を作る桐とは異なる植物で、ここ白浜神社境内が自生群落の北限であることから天然記念物に指定されました。



白浜神社境内北側の群生地

アオギリの特徴  
葉の形が桐の葉に似ていて、樹皮が緑色をしていることから

アオギリと名前がつきました。古い幹は灰色でザラザラしていますが、若木の樹皮はスベスベしたきれいな緑色をしています。  
夏に淡い黄色の目立たない花を咲かせ、秋には直径5ミリ程の丸い実を付けます。実のつき方が特徴的で、花の落ちた後、5個のサヤのような形をした果皮ができ、この果皮が割れると黄緑色をしたえんどう豆のような実が果皮についた形であらわれます。人の手の平よりも大きなアオギリの葉の黄葉は目立ち、神社の例大祭が行われる10月下旬頃には黄色く色づき始めます。落ち葉は茶色くなって木の根元を覆い、歩く人の足元をカサカサとにぎわします。どこで見ることができるとか主に境内北側に群生しています。宮前川の上流では、ビヤクシンの大木をよけるように川面に張り出した勢いのよいアオギリを目前に観察することができ、冬になると大きな葉も落ち、緑色のきれいな幹は一層目立ちます。



アオギリの花

アオギリの実を炒ってコーヒーの代用品にしたり、食用にするということが書物には書かれています。地元白浜地区においては戦時中、葉をタバコの代用に使用したことはあると聞きましたが、炒って食べたり、コーヒーの代わりに飲まれたという話は聞いたことがありません。実際に試してみると、言われなければわからないくらいコーヒー的な香りの飲み物ができあがりませんでした。

アクセス  
伊豆急下田駅より板戸一色行きバス 神社前バス停下車  
問合せ先  
教育委員会生涯学習課

TEL 5055

## 樹の葉 vol.70

先月号で賀茂地域全体の合併の必要性について書きましたが、皆様ご存じのように西伊豆・東伊豆両町の離脱により、県から示された1市5町の構想は崩れてしまいました。2年前に合併したばかりの西伊豆町の不参加はある程度見越して、残る5市町で先行しての法定協議会の立ち上げを模索していただけないかと、東伊豆町の離脱表明は大変残念な結果となってしまいました。今後、賀茂地区の合併はこれまで合併に向かって前向きに議論を進めてきた1市3町(下田・河津・南伊豆・松崎)の考え次第となります。合併できれば人口5万2千人。伊豆の中では熱海・伊豆・伊豆の国市より大きな南伊豆地区の中心市となりえます。合併新法の期限は平成22年3月。2町の離脱で振り出しに戻った合併問題。このまま小規模自治体のままでは時代の流れに取り残されてしまいます。将来多様化する住民ニーズにしっかりと応えられる行財政基盤の強化ができる最後のチャンスを見逃さないよう、協議会の中で「残る1市3町ができるだけ早い段階で前向きに協議する必要がある」と3町長に提案をいたしました。

議会をはじめ地域住民の力強い後押しをお願いいたします。

先月末、市民会館で「私の好きな下田の風景の活かし方」のパネルディスカッションが開催されました。下田市には魅力的な景観(風景)がいくつかあります。4月から景観行政団体となり、景観法を活用しながら、下田のすばらしい景観をどのように守っていくべきか、あるいはまち並みなどをどのように誘導していくべきかを検討し始めています。パネリストの観光計画研究所を主宰する菅原由美子さんの話が印象に残りました。「不易流行」といつまでも変わらない本質的なものを大事にし、新しく変化していくものも取り入れていくこと。「下田にある伊豆石の建物やなまこ壁がなぜ造られたのか、もう一回よく考えるところに先人の知恵がいっぱい詰まっている。変えていい物、変えていけない物をきちんと理解をしなければならぬ。下田はまだただたくさんある宝を磨ききっていない。もっと努力をしなければ」と指摘されました。市民の皆さんのアイディアご意見を寄せ下さい。



下田市長 石井直樹